



東西しらかわ小学校長会 広報部

第 1 号 平成30年7月4日
 発行人 会長 大杉 和規

県南は一つ

東西しらかわ小学校長会会長 大杉 和規
 (白河市立白河第一小学校長)

県南は一つ。東白川小学校長会と西白河小学校長会が統合し、県南域内の小学校長会は一つとなり、東西しらかわ小学校長会としてスタートを切りました。

東西しらかわ小学校長会は、東白川小学校長会と西白河小学校長会が、単に一緒になった組織ではなく、新たな組織として生まれ変わったのだと考えています。

東西しらかわ小学校長会会則第3条目的には、「本会は、会員の職能の向上を図り、県南域内教育の進展に寄与する。」とあります。この目的の具現に向け、東西しらかわ小学校長会はどうあるべきなのかを、東・西小学校長会のこれまでの活動を踏襲しつつ、東西しらかわ小学校長会としての新たな姿を探していくことが大切であると考えます。

矢吹町の栗林正樹教育長様は、西白河小学校長会研修会の折に、「校長室は、校長が一人静かにじっくりと学校のことを考えるためにある。」と話してくださいました。校長がそれぞれの校長室で、じっくりと考え、それぞれに実践していることを校長会として共有し、それぞれの学校でアレンジし実践する。このことが、県南域内教育の進展につながると考えます。

校長会は、さすが、校長の集まりです。確固たる教育信念を持ち独創的な学校経営をしている方

ばかりです。その校長の取組を東西しらかわ小学校長会全会員で共有し、各学校でいかしてこそ、東西しらかわ小学校長会の目的である県南域内教育の進展は成されるのです。

5月の第1回校長会研修会では、管理職の育成という課題解決に向け、新任の校長先生4名に「校長昇任審査に向けた私の取組」と題して話していただきました。校内における管理職育成に向けた取組のためのヒントをもらおうと計画したのですが、4名の新任の校長先生、さすがでした。昇任審査を見事クリアした方々だからこそその話を聞かせてもらい、各学校における管理職育成に向けた支援の在り方が見えてきました。そして、「課題解決の答えは、校長会の中にある。」と実感しました。

また、個人の取組の共有ということでは、例えば、私は昨年度から、全ての起案にコメントを書くことに取り組んでいます。年度初めの6年生の学年通信No.2の起案には、「立て続きの学校行事への対応ご苦労様です。でも、こうしたことを一つ一つしっかりとやり遂げることで子ども達が成長していくことを実感できますね。子ども達のためにありがとうございます。」と記しました。これは、私の小さな取組ですが、校長会37名の校長は、それぞれの教育観に基づき、個性的に学校経営に取り組んでいます。その取組をぜひ共有したいと思っています。

さらには、「県南は一つ」ですが、各市町村ごとに独創的な教育が展開されている県南でもあります。白河市では、「白河市歴史・文化再発見事業」「コーディネーショントレーニングの普及」等の教育施策が展開されています。県南域内の各市町村において独創的で地域と密着した教育施策が展開されています。しかし、その具体を知る機会はなかなかありません。県南各市町村の教育施策を知る取組を研修に取り入れることも、県南域内教育の進展に寄与するものと考えます。

5月の第1回東西しらかわ小学校長会では、各校長が、「自分は、東西しらかわ校長会のメンバーの一人であり、県南は一つである。」という思いを共有しました。この思いを基盤に、東西しらかわ小学校長会は、子どものよりよい成長のためスタートしていきます。

懇親会の「閉会の言葉」

東西しらかわ小学校長会副会長 武藤 誠
(白河市立みさか小学校長)

5月9日に行われた初めての東西しらかわ小学校長会の懇親会、東白川そして西白河のたくさんの校長先生方とお酒を酌み交わし、学校経営や趣味の話、そしてお酒の話などに花が咲き、本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。いつものように2時間の時間設定ではありましたが、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまうもので、これまでになく短い時間に感じられました。

ところで、私はこの会の閉会の言葉を努めることになっていましたので、一応こんな話をしようと思っちょつとは考えておりました。そしていよいよ閉会の言葉です。「私は白河に住んでいますが東白川出身の人間です・・・。」と切り出した瞬間に微妙な会場の雰囲気を感じたのです。この後に「でも、こうして東西が一つになったことをとても嬉しく思います。(略)以上で東西しらかわ小学校長会懇親会を終了します。」と話すつもりでいたのですが、この微妙な雰囲気がなぜ起きたのか短い時間に必死に頭を巡らせました。そして気づいたのです。『そうか、せっかく東西しらかわ小学校長会と一つになったのに、ここで「東の人間です」と言うこと自体に違和感があったんだ』と。言葉で発したものはもう取り返しができません。決してそんなつもりは無かったのですが、配慮が足りなかった自分がかかりすぎるばかりでした。県南地区に戻ってまもなく30年。県南に戻ったときには東白川と西白河との微妙な区別を感じていました。「あなたは東に根を張るのか、それとも西なのか？」と尋ねられたこともありました。教諭としても管理職としても東白川と西白河両方に勤務してきましたが、西白河地区に家を構えた東白川の人間として様々な思いがありました。「県南はひとつ」と言われてから、もう何年経ったことでしょうか。結構長い道のりだったような気がします。でも、時間はかかりましたが、平成30年度、東白川小学校長会と西白河小学校長会がついに一つになりました。本当にうれしく思います。今後、まだ一緒になっていない小学校教育研究会等関係諸団体も統合に向け動きが活発になるかと思えます。「県南はひとつ」。閉会の言葉の失敗は繰り返しません。

まめがらっ子の健やかな成長のために

白河市立白河第四小学校長 新田 直子
白河第四小学校の児童には、学校の住所「豆柄山」にちなみ「まめがらっ子」という素敵な名前があります。素直で、一生懸命なまめがらっ子と、子どもたちを温かく支え、励ましてくださる家庭、地域の皆様。さらに、学校のある豆柄山付近には、桃やりんごなどの果樹園が広がっています。私が着任した4月は、桜だけでなく、桃やりんごの花が咲き乱れ、まさに桃源郷そのものでした。すばらしいこの白四小に校長として着任できた喜びと、責任の大きさを実感した4月でした。

初めての校長職、初めての白河市への赴任を前に不安も大きかったのですが、白河市教育委員会教育長様をはじめ、教育委員会の皆様、東西しらかわ校長会の諸先輩方に温かく迎えていただき、本当にありがたかったです。心より感謝申し上げます。

本校の学校経営グランドデザインの中には「まめがらっ子トリプルA(あいさつ・ありがとう・あきらめない)」と「仁(思いやり)」の心という言葉があります。今年は戊辰戦争150周年にあたり、白河市全体でも「仁」の心を取り上げています。校長として、まめがらっ子一人一人が「仁」の心を育みながら、教育目標「心と体をきたえ、進んで学び、がんばりぬく」ことを目指して、教職員の協働と、家庭、地域との連携を図りながら、日々努めていきたいと思えます。さらに今年は『「～たい」がおよぐ学校!～あきらめないで 学び続ける まめがらっ子』というスローガンも掲げています。「〇〇がしたい」「やってみたい」などの意欲をもち、それに向かってあきらめないで学び続けること、人・こと・ものにすすんでかかわることで、教育目標の具現を目指していこうとするものです。白四小と地域のよき伝統をしっかり引き継ぎながら、さらに高め合えるよう、まめがらっ子たちの健やかな成長を目指して努力して参ります。域内の校長先生方には、大変お世話になります。今後ともご指導の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



気付くために歩く

白河市立大屋小学校長 今井 不二子

「気付く」ことは大切である。「気付く」ことは、現状を把握できることであり、場の空気を読めることでもある。改善や進歩には、「気付ける人」がいることが必要である。指示による行動だけでは、よりよい学校生活にすることは難しい。自ら「気付き、考えること」を積み重ねた児童は、よりよい生活をしたり、自分を高めるたりできるようになり、同様に、教職員は、責任のある仕事だけでなく、創意工夫のある仕事もできるようになるのではないかと。だからこそ、自分自身が「気付ける人」でありたいし、「気付ける人」を増やしていきたいと考えている。

大屋小学校に着任し、児童が、より楽しく生き生きと生活するにはどうしたらよいか、さらによりよい学校にするにはどうしたらよいかと考え、「気付き」を増やすために歩くことにしている。学校の中も外も歩き、何かないかと考え、じっくりとみて回る。出会う人には、あいさつしたり、質問など話をしたりして、情報を集めている。歩いている中で、児童や先生方の良さに気付いた時は本当にうれしくなる。また、マンネリ化した行動や動線には、新たな気付きは起こりにくいことから、時間帯、ルートを変えて、みる角度も変えて歩く。

大屋小学校の集会では、児童の声が大きく響く。児童のあいさつも返事もどれも立派で、集団として良いことがわかる。授業では、児童の発表の声がたくさん聞こえて活気がある。先生方の児童への深い愛情と努力によって良い学級集団が形成されているため、自分の考えが発表できるのである。学校として良い集団、そして良い環境とするために、教職員が支え合い、保護者や地域の方の大きな支援と協力がある。このような、私の「気付き」が児童や教職員全員の「気付き」になるために、今日も歩く。

県南での勤務は初めてでわからないことばかりです。東西しらかわ地区の校長先生方には、いつも優しくご教示いただき心より感謝しております。精一杯がんばりますので、今後ともご指導をよろしく願いいたします。

また読み返したい手紙

中島村立吉子川小学校長 石沢 泰蔵

新任校長として、環境の変化と日々の業務に追われるうち、いつの間にかまぶしい程の夏の青空の季節となっていました。本稿を書く機会をいただき、着任の頃を思い起こしました。

例年よりも早い校庭の桜の開花が、私たち転入職員と新生生を華やかに迎えてくれた4月。かつて私が教頭としてお仕えした校長先生から、お祝いの言葉とともに励ましのお手紙が届きました。お仕えした頃、その校長先生は、ここぞという時には“ならぬことはならぬ”の精神を言葉と行動で実践され、ご出身地の気概“会津魂”をお示しになる方だと、私は感じていました。

いただいたお手紙には「人を育てる」という意味で、その校長先生が大切にしてきた(している)ことが書かれてありました。「校長は、教頭を厳しく育て上げること」、「校長と教頭は良きにつけ悪きにつけ運命共同体であり、一方の一方の間違ひは互いのものになること」の二つから、丁寧にそのお考えを伝えていただきました。手紙を読み終えた時、お仕えした時には気付けなかったことの数々…、“あの時、あの言葉、あのご指導はこれ程の深い思いからだったのだ”という思いとともに、お別れした時のお礼の言葉では到底伝え切れていない筈の感謝の思いが、改めて湧き起こりました。

私は、本校への赴任が伝えられる前、“学校の経営を校長として任せられるとしたら、どんなことをするか…”という問いには、“学校は子どもたちのためにある。子どもたちのことを中心に考え、答えを導き出せば間違いない”と考えていました。その大切さは今も変わらず感じているものの、学校や子ども達だけの視点で済ませていた自分に、校長として欠けていたものを、お手紙から強く思い知らされました。

自らが、多くの方々に支えていただき、育てていただいた存在であることを忘れず、縁あって与えていただいたこの環境、この立場で、子ども達そして、後に続く先生方のために校長として自らを高め、それを行い続けていかなければ、という思いを強くして、この手紙を読み返しています。

棚倉小に赴任して

将来を見据えて

棚倉町立棚倉小学校長 荒川 文雄

私は棚倉小学校昭和46年度の卒業生です。母校に赴任できますことは大きな喜びでもあり、その責任の重さを考えると不安でもあります。皆様からご指導をいただきながら務めていきたいと考えております。よろしくお願ひいたします。

さて、棚倉町はキャリア教育を推進しており、その成果は大きなものがあり、最先端と言っても過言ではないと思います。キャリア教育は、新学習指導要領の第1章総則第41(3)にも取り上げられており、新しい教育課程においてもキャリア教育の充実が求められています。

本校においても、全教育活動をキャリア教育の視点で捉え、実践するように教育課程が編成されており、「なりたい自分になるために学び続ける児童の育成」が教育課程全体のテーマです。

なりたい自分になることは、授業ではねらいを達成することであり、行事や学期、学年の目標を達成することでもあります。達成経験を積み重ね、自信や自己肯定感を持つことが、将来の夢の実現や職業的な自立へつながっていきます。それが可能となるような教育課程を構想、実践、評価、改善していきたいと思っています。

また、なりたい自分になるためには、人から指示される前に、自分で課題を見つけ学び続けることが必要です。毎日降り積もるように行われる授業の中で、自分なりの課題を持ち、解決する経験を積み重ねていけば、主体的に学ぶことができ、その学びが連続することで学び続けることができるようになるのではないのでしょうか。

そして、そのような日常的な活動のほかに、職業体験を含めた様々な体験活動を組み合わせることで、貴重な体験を各教科や各領域の学習において深化・統合していくことも必要になります。体験活動は、地域の人的資源や物的資源を活用することで、より効果が表れると思います。

さらに、学び続けるためには、学級の人間関係が良好で、ルールが守られていることが必要です。一人一人違っている子どもたちが共生できるような学級、学年、学校にするために、保護者や地域の方々とは協働していきたいと考えています。

棚倉町立社川小学校長 大竹 孝喜

棚倉町にお世話になるのは、今回で2度目となります。20年ほど前に棚倉中学校に勤めていました。その頃、社川小学校の新校舎ができて、斬新なデザインとその風貌に驚いたことを覚えています。児童名簿を見てみると、保護者の覧に見覚えのある名前がいくつかありました。自宅に戻ってその当時の卒業アルバムを眺め、「もしかすると〇〇さんなのかな?」と思いを巡らせ、その当時のことが鮮明に思い出されてきました。物忘れが多くなり、不摂生を反省していたこの頃ですが、その当時の出来事が映像をまじえて思い起こされることに自分でも驚きました。授業参観や保護者会の折に、「先生!」と声をかけられ、「〇〇さんもお母さんになったんだね。」「〇〇くんもお父さんになり仕事をがんばっているんだね。」等、月日の流れと教え子たちの成長を感じています。同じ町内の学校に小中の校種で勤務させていただくありがたさを感じています。

さて、棚倉町ではキャリア教育に力を入れて取り組んでいます。変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要な資質・能力として、基礎的・汎用的能力(人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力)を学校教育全体で育てていこうとするものです。今まで実践されてきた諸先輩方からアドバイス等をいただき、学校経営における推進について勉強をしているところです。現任校に赴任してからは、「自己管理能力がなかったな。」「課題対応能力が弱かったな。」等、自分の行動を振り返るようなこともあります。社会生活を送る上で必要とされる資質・能力だのと痛感するとともに、よりよく生きていくために大切な力だと感じているところです。当たり前のことですが、学校を卒業した後の月日の方が圧倒的に長いです。子どもたちがそれぞれ持ち味を生かして生き生き生活できるよう、必要とされる資質・能力を身につけさせなければと思います。

最後になりましたが、はじめての小学校勤務となりますので、域内の校長先生方にお世話になることが多いと思います。よろしくお願ひします。

新任校長として

笹原の瞳

棚倉町立山岡小学校長 伊藤 弘行

昼休みに学年関係なく仲良く遊ぶ22名の子どもたち、熱心に教材研究をして授業に臨む先生方、そして、全力で学校を支えてくださっている保護者・地域の皆さんに囲まれて、校長として勤務できるありがたさを感じ、本当に幸せなことだと感謝するとともに、その責任の重さを強く感じているところです。

本校は、明治7年に創立し、今年で144年の歴史を刻む伝統のある学校です。校長室には、38名の歴代校長と54名の歴代PTA会長のお名前が掲げられています。これを目にするたびにその時々喜びやご苦勞があり、それらを積み重ねながら山岡地区の子ども達のためにご尽力された先輩方に思いを馳せています。

棚倉町では、すべての学校でキャリア教育に力を入れて取り組んでいます。棚倉町に赴任する以前は、「キャリア教育＝職場体験」という程度の認識しかありませんでした。3月末、教育委員会にご挨拶に行った際に、教育長さんから最初に尋ねられたのが「運動会は何のためにやるんですか。」ということでした。その時は、質問の意図もよく分からずに当たり障りのない返答をしたと思います。その後、教育長さんの熱い話をお聴きしたり、キャリア教育関係の本を読んだりするうちに、「キャリア教育は単なる職場体験や進路指導をすれば良いということではなく、日々の授業をはじめ、学校行事や朝のマラソン・・・など、全ての教育活動に対する意識改革こそが大切なのだ。」と気がつきました。これまで何気なく行っていた教育活動をキャリア教育の視点で捉え直すことによって、「基礎的・汎用的能力」を育成する教育活動として位置づけることができるのだと考えるようになりました。

学校経営・運営ビジョンの右上に、保護者・教師の究極の願い：『子ども達にいい人生を送ってほしい』と書き加えました。そして、これは、キャリア教育がめざすものでもあると考えるに至りました。目の前の子ども達の「よりよい人生」の土台づくりのために、全職員が一丸となって全力で取り組んでいきたいと思えます。

埴町立笹原小学校長 小野 一彦

突然ですが、校長先生方は、『魔女の瞳』という福島県内にある『湖』をご存じですか。また、実際に見に行ったことがございますか。

私はこの春、本校に赴任が決まった後、埴町立笹原小学校はどこにあるのだろうか、いわき市の勿来地区から国道289号線を通って、休日に車で見に来てみました。

郡山市や福島市へは、出張時や身近な親族が住んでいたこともあり、磐越道や国道49号線、御斎所街道は度々通っておりました。しかし、国道289号線を通って県内を横断することは、十数年振りの出来事でした。

鮫川村の青生野地区を南下し、那倉川沿いの県道を通ってみました。大蔵地区を過ぎて最後の急勾配を下りかけると、左手に笹原の地が一気に見える場所に差し掛かりました。

そしてその眼下の眺めの素晴らしさを見た時、私の脳裏に浮かんだのが、『魔女の瞳』だったのです。

数年前に、吾妻連峰をハイキングして、一切経山の山頂から見た、浄土平の五色沼と同じ晴れ晴れとした爽やかさだったのです。

その後、学校下のバス停駐車場に車を止め、笹原小学校の白いきれいな校舎を眺めつつ、しばらくの間、4月からの職責に向かう気持ちを高めていました。

そして、赴任から三か月が経とうとしている今、笹原小児童101名、笹原幼稚園児15名の澄んだ瞳と素直な心をいつまでも、と思う毎日です。

先日、是枝裕和監督作品の映画『そして父になる』を鑑賞して、作品の素晴らしさに感動し、様々なことも考えさせられました。

子どもは、一人一人、生まれも育った環境も違えば、持って生まれた能力や性質も違うこと。

人は、アクセルを踏み続けて進むばかりでなく、時にはブレーキをかけるのも大切であること。

「そして、父親になる」ことは……………。

「そして校長になる」ことは……………。「校長先生、……………。」「園長先生、……………」と、まっすぐな瞳でたくさん呼ばれるよう努めて参ります。

あれから7年余

互いに学び合い高まるために

矢祭町立矢祭小学校長 関根 隆

東日本大震災が起きたあの日、私は埴町立片貝小学校教頭として、卒業式の準備を進めていました。午後2時46分、すさまじい揺れが学校の木造校舎を揺らしました。児童はすでに下校していたため、職員と校舎の外に慌てて避難した私は、大きく、そして激しくうねる校舎の屋根を見て、「学校が潰れてしまう」と叫びました。閉校を1年後に控えた片貝小学校は、床と壁の隙間から校庭を覗くことができるほど老朽化した古い木造校舎でした。

180秒間の揺れが収まり、不安とともに校舎に戻ると、棚の上に置かれた写真立てや本などが散乱しています。壊れた部分がないか校舎を巡視してみると、どこも壊れていません。「あちこちの隙間のおかげ?」とほっとしました。その後、急いで子どもたちの安否確認に全職員で車を走らせました。

約2ヶ月後、プールの時期になりました。埴町校長会では、放射線の影響からプールを実施しないことになりました。そしてその決定をPTA会長に伝えました。すると、「教頭先生、会津ではプールをやるんですよね。片貝の放射線量は会津より高いんですか。この1年間プールをやらないことで、子どもたちにどんな影響がありますか。」と聞かれました。私は、「今年泳げるかもしれない子どもが、チャンスを失うかもしれません。片貝の放射線量は、会津より低いことも分かりました。」と答えました。すると、直ちに学校を除く臨時PTA総会が開かれました。30分後、「全員一致でプールを開いてほしいということに決まりました。」と告げられました。当時の校長先生は、「私の後ろ盾はPTAの皆さんです。やりましょう。」と答えられました。私はニコニコしてPTA会長さんに「マスコミ対応をお願いしますね。」と伝えました。内心は、「マスコミが来たらどうしよう。」と不安で一杯でした。その後、川内村がプールを実施するというニュースが流れ、マスコミはそちらに集中しました。

その夏のプールには、子どもたちの楽しげな歓声が響きました。そしてたくさんの子どもが泳げるようになりました。

あれから7年余、その子どもたちはどんどん成長しています。毎年開かれる片貝の同窓会で、子どもたちに元気をもらえる日が今年もやってきます。

東西しらかわ小学校長会研究部長 小峰 光
(中島村立滑津小学校長)

今年度より、東西しらかわ小学校校長会となり、研究部も、白河東、白河西、西郷、矢吹・中島・泉崎、棚倉の5つの班編制で研究がスタートしました。

今年度より始まる平成30、31年度第Ⅲ期2カ年の研究主題は「新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く、日本人の育成を目指す小学校教育の推進」です。副主題は「ふるさとに誇りを持ち、たくましく未来を拓いていく、子どもを育てる学校経営と校長の在り方」です。お手元にある研究の手引きは、研究主題、副主題を受け「よき未来、よき人生のつくり手となる子どもたちを育成するための学校はどうあればよいか」にこだわって作られています。

自校の課題を明確にし、リーダーシップを発揮して主体的・組織的に研究を進め、課題の解明に努めるとともに、その成果を共有し、自校の学校経営上の課題解決に生かしていかなければなりません。これからの継続的かつ実践的な研究の累積は、研究主題を究明すること、さらには、新しい課題に応える教育の推進に繋がり、福島県の教育の目指す方向に寄与するものとなります。

本支会においては、平成31年度には県大会において白河東班が「4豊かな人間性」について、東北大会において棚倉班が「5健やかな体」について成果の発表をいただきます。また、その他の班は、県大会において資料の提出をいただきます。

各班とも、研究を進めるにあたり、各分科会の昨年度の成果と課題を受けとめつつ、特にこの2カ年は、新学習指導要領の移行期間でもあり、改訂の背景と目指す方向性を踏まえた上で、各校の実態や課題を明確にして、情報共有しながら、具体的な学校経営に関わる課題解決のための実効ある継続的かつ実践的な研究を進めていただきたいと思いますよう、よろしくお願ひします。

